

小路古墳

玉名市玉名所在

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

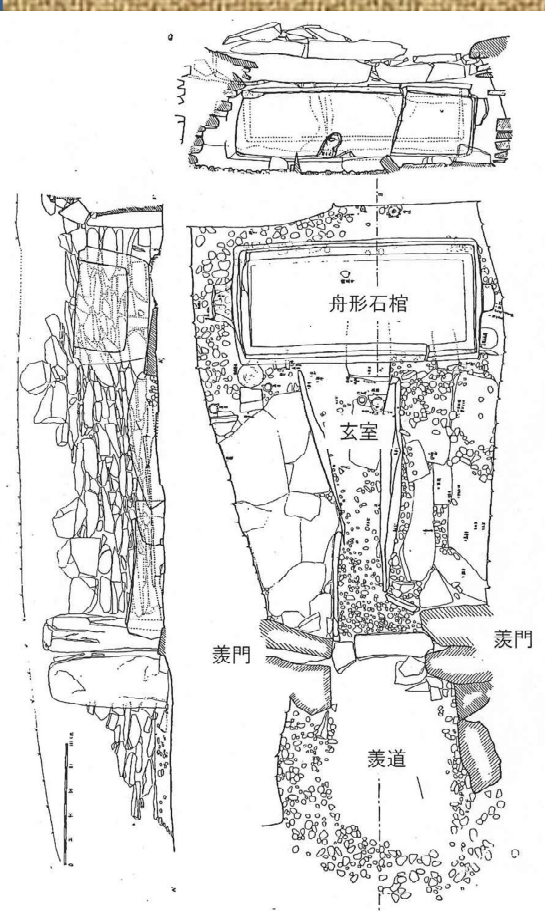
TEL:0968-75-1136

bunka@city.tamana.lg.jp



菊池川右岸の丘陵上に位置し、装飾古墳で有名な永安寺東・西古墳や馬出古墳の近くにありました。直径 11m の円墳とされていますが、周辺は削平されているため、本来の大きさは不明です。昭和 41 年、山砂採取工事に伴い発掘調査され、天井部は消滅していましたが、単室の横穴式石室で、奥^{おく}屍^{ししやう}床^{しょう}に舟形石棺、通路の左右にも屍床^{ししやう}があることがわかりました。玄室は安山岩の割石を小口積みにし、羨門^{せんもん}は花崗岩^{かこうがん}を使用しています。石棺は全長 2 m、幅約 1 m で蓋は切妻の家形でした。石棺の年代は 6 世紀初頭と考えられ、舟形石棺としては市内で最終段階となります。それまで古墳^{ちやくそう}に直^{いしやかた}葬^{さう}されていた石棺は、横穴式石室の中に置かれ、その後、石室形へと変化していきます。石室は調査に参加した玉名高校考古学部によって移設され、現在も見学できます。

石室に舟形石棺を置いた古墳

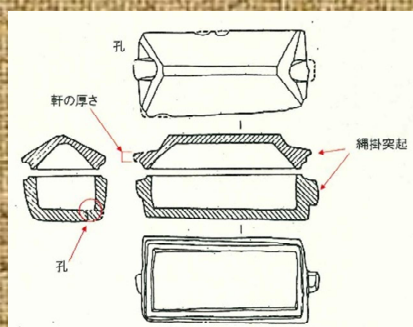


石室の実測図

発掘調査は、昭和 41 年に田添夏喜氏と玉名高校考古学部が実施。石室は、大正時代に石材確保のために荒らされたとみられ、石棺の蓋は割られていました。おそらく石棺内の副葬品もいくつかは紛失している可能性が高いと考えられます。



石室の発掘状況



舟形石棺



石室を移設した玉名高校考古学部



移設復元されている小路古墳



出土した土師器と須恵器

小路古墳の副葬品

古墳時代の豪族に変装してみたにゃん！



装身具—Accessories—

◀^{じかん}耳環は耳飾りで金メッキされています。勾玉は6点あり、中央の一番大きなものはガラス製で、他の5点はヒスイ製です。他にガラス製の小玉と大玉、管玉があり、東京理科大学の分析によって、ガラス製勾玉はアルミナソーダ石灰ガラスと分かっています。これは九州地方の古墳時代に最も流通した古代ガラスで、インドから東南アジアに起源をもち、輸入したガラスを溶かして日本で成形しなおしたとみられます。

▼小路古墳の馬具からわかることは、金メッキを施し、装飾性が高いことです。5世紀代の伝左山古墳などでは乗馬する際に必要最低限な轡くつわとあぶみ鐙のみが出土していますが、6世紀の小路古墳は馬全体に装飾品を付けていたことがわかります。特に雲珠うすずは、半円形の脚が10脚もあり、花形びょうの鉾が付き金メッキされるなど、大変手が込んだものとなっています。

馬具—harness—

▶ 武具の種類もいろいろありますが、
小路古墳からは、鉄鏃がほとんどで他
に刀子とうすがありました。通路などから不
規則に散乱した状態で出土したため、
後世かくらんに攪乱されていることがわかり、
本来はもっと多く副葬されていたと
考えられます。鉄鏃は、なかご莖をもつ有
茎ゆうけいの平根式が2点、他は尖根式で細長い
ひらねしきタイプでした。鉄鏃は通常、束にして
とがりね副葬されているものが多いようです。



武器—armor—



馬具の装着図

